

第4号

# トリセツ

—鳥大説明書—

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。  
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。



鳥取大学国際交流センターは、外国人留学生だけでなく、私たち鳥大生や教職員にとっても国際活動をする上で重要な機関となっています。そこで、鳥取大学の国際化に貢献する国際交流センターの役割を、一部ご紹介したいと思います！

## 国際交流事業



- じゃんしゃん祭りへの参加
- 留学生と日本人学生との交流会
- 日本文化研修旅行
- 田植え／ゆかた着付け体験 等

## 留学生への教育支援



- 日本語教育
- 日本語事情教育
- 海外安全教育 等

国際交流  
センターって  
こんなところ

## 留学生等の受け入れ



- 来日手続きサポート
- 新規留学生等オリエンテーション (4・10月)
- グローバル化社会における多文化共生のための共同育成プログラム 等

## 海外派遣



- 鳥取大学GLOBAL GATEWAYプログラム (メキシコ、カナダ、アメリカ、ウガンダ、オーストラリア、台湾)
- 協定大学への交換留学 (18カ国・地域、49大学)
- 鳥取大学国際ナショナル・トレーディング・プログラム (TU-ITP) 等

鳥取大学の外国人留学生数(地域別内訳)  
※平成27年5月1日現在

韓国・台湾・中国	その他アジア	アフリカ	ヨーロッパ	南北アメリカ	合計
101	41	18	1	1	162

(鳥取大学 国際交流・留学情報HPより: <http://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja>)

鳥大の学生や先生方、  
研究室の取り組みを  
紹介していくコーナーです。

鳥取大学国際交流センターでは留学生等を対象に、生活や自己表現、研究活動に必要な基本的な日本語を、それぞれのクラスにわかれて各々がレベルアップできるように教育支援を行っています。日本語の授業では、留学生の日本語によるコミュニケーションをサポートするため、学生が日本語パートナーとしてボランティアで参加しています。そこで今回は、日本語パートナーの活動に取り組んでいる学生ヘイantaビューして来ました。

鳥取大学国際交流センターでは留学生等を対象に、生活や自己表現、研究活動に必要な基本的な日本語を、それぞれのクラスにわかれて各々がレベルアップできるように教育支援を行っています。日本語の授業では、留学生の日本語によるコミュニケーションをサポートするため、学生が日本語パートナーとしてボランティアで参加しています。そこで今回は、日本語パートナーの活動に取り組んでいる学生ヘイantaビューして来ました。



農学部3年 藤雅子さん

- Q なぜ日本語パートナーになったの예요か？  
A 大学主催の夏期マレーシアマラヤ大学英語研修プログラムへ参加した際、現地の方々に英語を教えてもらったり、身の回りのお世話をしてもらった体験から、今度は自分が日本へ来た留学生に恩返しとして勉強や生活をする上でお手伝いをしたいと思ったからです。
- Q 初めて日本語の授業へ参加した時の印象はどうでしたか？  
A いくつかクラスがある中で、私は初級のクラス担当でした。初級では「あ・い・う・え・お」の練習から始まり、遊びながら楽しく学んでいく感じでした。現在は一つ上のクラスを担当していますが、授業内容がより日常生活に密着した感じですね。先日は、スーパールの広告に関する内容だったので、大学付近のスーパールの特売情報の交換をしたりしていました。
- Q 日本語パートナーとして心がけていることは何ですか？  
A 留学生は日本語を学びたくて授業へ参加しています。日本語があまり上手に話せなくても自分より知識のある方や年上の方などおられるので、留学生の方への尊敬の念を忘れないように接しています。



日本語授業の様子

インタビュー!!

わたしの

トリくみ

日本語パートナー編

- Q 同じクラスの留学生でも日本語の上達度には差があるかと思いますが、どのように対応していますか？  
A 日本語で会話する上で、その方に合わせてわかりやすい単語にしたり、話すスピードを変えたり、抑揚をつけてみたりして、工夫をしています。
- Q 日本語パートナーをやっていてやりがいを感じた時はどんなときですか？  
A 留学生の方が以前習った単語や会話表現を使って話しかけてくれた時は嬉しかったですね。パートナーとしての授業への参加は週に一度担当していますが、毎週行くたびに日本語が上手になっている方もいて、その段々と上達していく過程に関われることにやりがいを感じます。

感じます。また、先日行われた大学主催の大山英語研修では、以前にパートナーを担当したことのある留学生の方が英語パートナーとして参加してくれて、ギブアンドテイクの関係を実感することができました。

Q 日本語パートナーに取り組む上で失敗してしまったことはありますか？  
A 初級のクラスだと、単語があまり伝わらず、絵やジェスチャーを使ってなるべく日本語で伝えようと思いますが、どうしても伝わらなかった時に英語が出てしまったことですかね。授業の時は相手の留学生も日本語で会話してくれていますが、授業が終わると私が英語を使えるようになっていたので、英語で会話してしまっただけがありました。だから、授業外でも日本語で会話するように心がけています。

Q 日本語パートナーの取り組みに参加したことで得たことはありますか？  
A 留学生は様々な国から来ているので、いろんな国のお話を聞けて知識が広がりました。他にも、日本語を学ぶ留学生の方を見ていて、日本語を楽しそうに真似ながら話している姿から、学ぶことは楽しいことだと改めて気づかされました。また、言語を話すということは、自分の気持ちや言いたいことを伝えるだけでなく、言語を話す人のコミュニケーションに入っていくので、そのコミュニケーションに入りたいという気持ちを表すものだと感じるようになりました。

Q 最後に今後の目標を聞かせてください。  
A 日本語パートナーとしては、これまでに担当した以外のクラスでもパートナーとしての経験を積んでいきたいです。上級クラスになると、昔話の桃太郎はなぜ桃なのか、なぜ川から流れてくるのか、など日本人としては当たり前の物事を、留学生の視点に置き換えてみたり、議論したりするそうです。私個人としては、今後行われるメキシコ海外実践教育プログラムへ参加するので、それに向けた準備に励みます。将来、何かしたいことが見つかって、それが日本だけでなく、海外へフットワーク軽く行けるように、国際交流を行うことで知識や経験を蓄えていきたいと思っています。

今回、日本語パートナーの取り組みを取材しようと思ったのは、実際に私も海外へ短期留学した際に、現地の方々に非常にお世話になった経験から、日本語パートナーの活動を通して恩返しになればと思ったことがあったからです。ですが、なかなか実際に取り組むには至らず仕舞いだったので、代わりに日本語パートナーを多くの人に知ってもらおうと思い取材させていただきました。この記事を機に、日本語パートナーだけでなく、海外へ飛び立ってみてはいかがでしょうか。(担当：富森)

# 日本語パートナー体験

6月某日、国際交流センター主催の日本語プログラムに参加、取材してきました。日本語プログラムとは留学生のための科目です。日本語や漢字を学んだり、コンピュータを日本語で操作したりとさまざまな内容があり、留学生が各々受けたい科目を選択できる仕組みになっています。

今回お邪魔したのは「総合日本語コース（“にこにこ”コース）」の「日本語B」という授業です。当日はいつもと比べて少々参加人数が少なかったようですが、それでも和気あいあいと明るく和やかな授業風景に感じられました。

この授業では、留学生1人につき1人の日本語パートナーが付き、指定のテキストに従って先生とともに日本語のスキルを学びます。私も今回は日本語パートナーとして授業に参加させていただきました！

授業が始まると、最初は軽いコミュニケーションから。もちろん全て日本語です。少しだけ日本語での会話を楽しんでから授業本編がスタートします。先ほどもありましたように、テキストを使って読み書きを行います。テキストの本文は日本語+漢字+カタカナで、漢字には全てルビがふられています。英語表記がほぼなく、国語の教科書といったところでしょうか。本文が意外と長くて驚きました。専門用語や独特の言い回しなども含めて、600字弱。イメージできるでしょうか。

まずは音読。先生の後に続いて本文を声に出して読んでいきます。今回の内容は「ダイエット」。参加した時は梅雨入りしている6月。もうすぐ夏本番！……読んでいてなんだか心に刺さりますが、気にせず参りましょう。音読をしつつ本文内で登場する単語をチェックします。ここに来て初めて登場する少しだけの英語。「いつも：always」という部分のみです。前に出てきたことのある単語や習った単語ももう一度復習。先生の「この単語の反対は？」といった質問と応答の間、日本語パートナーは答えを言ったりしません。ほぼ留学生の方々が答えます。さて皆様、「たいてい」や「ほとんど」などといった「頻度」についての副詞、多い順に並べられますか。今回のテキストにも登場した「頻度」の単語。留学生にとっては混乱しやすい日本語のひとつだろうと思いますが、日本語を母国語として用いている私たちはどうでしょうか。普段気にせず使っている副詞も、この授業で改めて日本語を学び直した気がしました。

音読が終わると続いて留学生と日本語パートナーのペア活動です。本文をもう一度音読し、テキスト内の問題に答えていきます。長い本文内から質問されている部分の答えが含まれている文を見つけ出します。答えの文は本文内のあちこちにあったり、言い回しが少しだけ違っていたりと、日本語の応用力が試されます。今回は簡単な計算をしつつ答える問題もあり、日本語で計算をして答えを導き出しました。

問題を解き終わると次は本文を用いてコミュニケーション。テキストの内容を自分に置き換えた文章を作り、ペアの人に話します。そしてそこから質問したり答えたりと日本語で会話をしました。

それが終わると今度は先生とともに本文の内容について確認します。うん……それにしてもますます身につまされるこの内容。入浴後のジュースやお酒はよろしくない、夜ご飯の食べ過ぎにも要注意です。といった具合に日本語の文章から改めて学びます。

最後は授業の集大成ということで、応用のQ&Aについて皆で答えます。「チョコレートを食べなくてもよい？」「お風呂の後にご飯を食べなくてもよい？」本文の文章から学んだ内容を活かして○か×かを判断します。ちなみに皆様は上記の質問について○と×、どちらだと思いますか。答えはどちらとも×（あまりおすすめできない）です。

この頃にちょうどよい時間となり、授業終了のチャイムが鳴ります。お疲れ様でした！留学生の皆様は日本語が非常に上手で、楽しくコミュニケーションできた90分でした。



緊張した日本語パートナー体験でしたが、改めて学ぶことができました。日本語パートナーは彼らの手助けをすることが目的であるということ。日本語を学びたい留学生にとって日本語の授業は難しいものでもあり同時に実践力が身に付くものであるということ。そしてなにより留学生の方々の勉強熱心さが素晴らしいということ。このようなシステムがあることは知っていましたが、関わる機会がなかったために、今回の参加を通してこういったものなのか実感することができました。留学生、パートナー双方にとってたくなるシステムとなりますよう、今後ますますの発展と活躍を期待しております。最後に、当日お世話になりました留学生・パートナーの皆様、先生方、ありがとうございました！（担当：山谷）

## 留学生インタビュー

### ウガンダ・メキシコ・マレーシア出身の3人にお話を伺いました。

**Q.1** 本日の授業で難しかったところは？

**A.** 日本語で読むところ。  
新しい言葉（「太る」・「痩せる」・「休憩」・「たいてい」・「自分で」など）。

**Q.2** 日本語の勉強はどれくらいしていますか？

**A.** 毎日ではないが、時々している。週末（日曜日）に日本語の教室\*に参加している。（\*鳥取空港内にて国際交流財団が主催している無料の日本語教室）

**Q.3** なぜ鳥取大学に？

**A.** 出身国の大学が鳥取大学と協定校だったから。

**Q.4** 日本語の難しいところは？

**A.** 漢字。文法。授業ではわかる日本語も、授業外だと難しい。

**Q.5** 好きな日本の言葉は？

**A.** 「上手（じょうず）」・「綺麗」・「可愛い」等の形容詞。



ご協力ありがとうございました！





## 日本語教員の方へインタビュー

今回授業をされた村田佳寿子先生と、同じクラスの別の曜日を担当されている伊藤邦子先生にインタビューをさせていただきました。

**Q** 日本語を勉強する留学生向けにどのようなクラスがありますか？

**A** AクラスからDクラスまであり、Dクラスに近づくほど難しくなります。Aクラスは、「あいいうえお」の書き方から勉強し、基本的な会話やカタカナも勉強しています。今回取材されたクラスはBクラスです。単位が出るコースもあり、日本語を専門に勉強している人は、単位が出るコースを取ることが多いです。漢字ワークシヨップなどのクラスもあります。

**Q** どのような日本の学生がパートナーとして活動していますか？

**A** 語学を学びたい、海外の人に会いたい、話したいという海外に興味のある人が多いです。ですが、教室の中では日本語が基本です。

**Q** 鳥大生の国際交流の現状についてどうお考えですか？

**A** 数年前と比べると留学のプログラムが充実しており、人材も増えていて、鳥取大学でも国際交流関係の仕事をしている人が増えています。行きたい



伊藤邦子 先生



村田佳寿子 先生

と思えば、留学の日程も多く、国も選ぶことができ、海外が近くなりました。補助金も出ていて、大学が手続きもしてくれるため、海外に行きやすい現状があると思います。

**Q** パートナー制度に今後期待することとは？

**A** 今後またたくさんの人に参加していただければありがたいし、個人的に留学生と友達になったら、経験も広がり、ひよっとしたら一生の友達ができるかもしれない。色々な人の話を聞いて、それを楽しんでほしいです。また、教えるだけでなくお互いに教わることも多いです。レベルが上のクラスになるとディスカッションなどが授業であり、色々な国の事情も聞けます。パートナーが日本語を学び直す機会にもなります。留学生の日本語のレベルに差があるクラスだと、先生が皆には合わせられないので、パートナーが個人のレベルに合わせて助けて助かっています。これからもパートナーの活躍に期待しています。



## 竹田先生へインタビュー

海外留学をする学生の支援をされている、国際交流センターの竹田洋志先生にお話を伺いました。竹田先生は海外留学をする学生の必修科目である「海外安全マネジメント」の授業の担当や、『海外安全ハンドブック』の出版をされています。

**Q** 安全教育はどのようなきっかけで始められたか？

**A** 10年くらい前から海外の英語研修の安全教育セミナーをやっていました。グローバル人材のプロジェクト(Go Global Japan)が始まってから、多くの学生に安全に海外へ行ってもらうため授業として取り組むようになりました。将来グローバルな社会で役に立つように教育をしています。単位として就職にも見える形で実施しています。

**Q** 『海外安全ハンドブック』はなぜ出版されましたか？

**A** 「海外安全マネジメント」の授業で使うということで作りました。25年度後期の授業から配布資料を作り、26年度前期はそれをまとめた学内の冊子を作り、同後期から出版し、色々な方に読んでいただけるようにしました。27年度前期には改訂版を出版し、一定の反響はいただいています。

**Q** 国際交流を通して学生に意識してほしいことは何ですか？

**A** 外国に対してそんなに高い壁を感じなくて良いです。日本の人口が減ってきて、今でも外国を相手に仕事をすることや、日本のお店の店員さんも外国人という身近な場合もあります。国境のない社会として、広く世界を見てほしいです。日本もヨーロッパのような人々が自由に行き来する社会に近づいており、外国という意識は減らさざるを得ない社会になっ



海外安全ハンドブック [改訂版]  
監修 竹田 洋志  
発売 今井出版

ていると思います。将来外国へ商品売る、その地域に特化した商品を作るということにしても、新しいお客さん、友達が増えるチャンスでもあるので色々なことを知っておかないと大変です。

インターネットで外国とつながることもできます。インターネットがきっかけとなり、外国へ興味を持ってくれたらと思います。インターネットで写真を見るだけでなく実際に行動してみることも大事だと思います。

**Q** 今後取り組んでいきたいこと、さらに力を入れていきたいことは何ですか？

**A** 安全教育の授業は多いクラスだと受講生が120人くらいおり、一方的に話さざるを得ないという現状があります。グループでの話し合い、発表としてトラブルが起ったときの演習を、取り入れたいができていません。何かあったときに後悔しても遅いので、授業で準備をしておけるよう演習形式で取り組んでいきたいと思っています。



竹田洋志 先生

今回は国際交流センターの先生方3名にお話を伺いました。日本語を教えておられる先生方は、パートナー制度があることで、日本語のレベルが違う生徒でも授業がやりやすいとおっしゃっていました。竹田先生は、日本と外国がこれから先もっと身近になるということをおっしゃっており、鳥取で暮らしている私たちにとっても国際交流は遠いものではないということを感じました。日本語パートナーは前期は希望者が多いそうですが、後期は学生が忙しいのか希望者が少ないので、パートナー募集中和のことです。少しでも海外に興味があるという方、パートナー制度を通じて国際交流してみませんか？後期の日本語パートナー説明会は10月上旬に予定されているそうです。(担当:小谷)



**学生広報スタッフ募集中!** 私たちと一緒に活動しませんか?  
宛先 ge-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp (ご意見感想もこちらまで!)  
取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました! ●2015年8月発行 ●編集発行/鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ